

どうにもできず頭を抱え込んでいる…情けない姿

本日で令和5年度後期前半が終了します。後期前半（10月23日から本日まで）は短く2ヶ月間です。短いながらも、学校行事では三尻中学校の文化の祭典である「SUNフェスタ」がありました。美術の作品展やコンクール、発明創意くふう展、作文などの分野で県を代表するような賞をいただいた生徒も数多くいました。部活動では吹奏楽部の打楽器七重奏でアンサンブルコンテスト県大会の銀賞を受賞したり、男子駅伝部が駅伝大会県大会で6位入賞を果たしたりしたことも印象深いです。ここでは、最後に取り上げた駅伝にまつわるお話をしたいと思います。

駅伝の男子チームの県大会上位入賞という結果にどうしても目が行きますが、男女ともに県大会への出場を果たしたこと自体が快挙だと思っています。駅伝部の皆さんは夏休みのころから練習を重ねてきました。目標タイムを設定し、それをクリアしていく繰り返しです。誰かと争うのではなく、自分自身との戦いでもあります。苦しくも孤独な戦いを3年間続けてきた人もいました。結果だけでなく、その努力に心からの敬意を表します。ですから、応援には、当然熱が入りました。「努力の成果を発揮してほしい」と祈るように応援していました。と同時に、40数年前の私自身のことも思い出していました。私も三尻中学校の駅伝チームのメンバーでした。思い出していたのは、皆さんのように輝かしい姿ではなく、今にして思えばとても恥ずかしい姿です。当時は陸上部（長距離）がなく、各部の寄せ集めチームでした。ただ、練習は厳しかったです。ご自身が箱根駅伝を走った経歴の先生が監督でしたので、専門的な指導もありました。練習期間も今からは信じられないほど長かったです。2年生のある時です。薄暗くなったグラウンドで、相当な距離を走り、完全に追い込まれている状態でした。この時にはまだ、自分から走りたいと思うわけでもなく、やらされている感覚もあったのだと思います。体調も良くない日でした。ちょっとした休憩時間があつた隙に、グラウンドから逃げ出してしまったのです。無断です。ただただ、あの苦しさから逃れたかったのでしょう。グラウンドから逃げた瞬間のことは記憶にないです。でもよく覚えているのは逃げ込んだ先の八幡神社の境内で、のどの渇き、空腹と寒さの中、とんでもないことをしてしまった自覚がわきおこってきた時のことです。学校には戻れない、家にも帰れない…、どうにもできず頭を抱え込んでいる…情けない姿を思い出します。失敗はこれだけではありません。中学生のころはものすごく未熟でした。ここにいる皆さんも、未熟な部分をもっていると思います。それは当然です。様々な経験や学びを通じて、これからゆっくりと成長します。成長過程にある存在だからです。

私は、監督から駅伝から（時間はかかりましたが）自分の決めた目標タイムをクリアしていくことの大切さ、楽しさを学びました。今はもう走りませんが、この学びが「自分なりの目標」を仕事や日常生活の中で設定していくことにつながっていると思います。

これから始まる冬休み。お正月には、実業団や箱根駅伝も行われます。箱根駅伝の常連校である東洋大学のスローガンは「その1秒をけずりだせ」です。一人一人が「1秒」を短縮するために、練習段階から当日のレースまで何をすべきなのかを真剣に考え、行動に移すのだそうです。誰か一人の10秒ではなく、10人の1秒をつないだ10秒の方が意義深いように思います。時間があれば、駅伝をテレビで観戦してください。そして、冬休みには、「自分なりの目標」を設定して、着実な努力を続けてみましょう。

来年1月9日（火）有意義な冬休みを過ごした皆さんが学校に集まることを楽しみにしています。